



No.628A

D129

LC7253

C-MOS LSI

クロックつきデジタル5桁周波数表示用
(ケイ光表示管ドライブ用)

○ 半導体ニュース No.628 とさしかえてください。

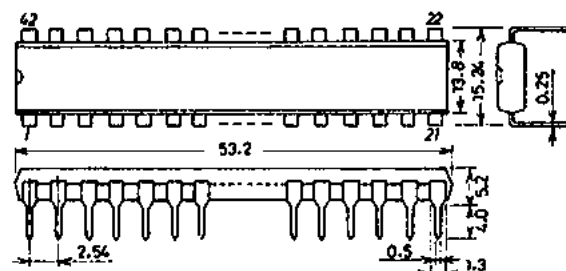
- 用途 ・ カララジオ、ホームラジオ用
FM/SW/MW/LW 受信周波数表示 と 時計、
・ カークロック用
時分、月日 および ストップ ウォッチ表示、
- 機能 ・ FM 受信周波数表示
50 kHz 単位で 5 桁表示可、
・ SW 受信周波数表示
5 kHz 単位で 5 桁表示 または 10 kHz 単位で 4 桁表示可
(ただし 19995 kHz まで)、
・ MW/LW 受信周波数表示
1 kHz 単位で 4 桁表示可、
・ 時分表示
・ 月日 および ストップ ウォッチ表示
月日 あるいは ストップ ウォッチのどちらかの機能を選択
して使用できる、

- 特長 1. スタティック表示方式の 1 チップ C-MOS LSI、
2. ケイ光表示管を直接駆動できる、
3. 周波数と時刻を切り換えて表示できる、
4. バラクタダイオード および バリコンまたはムリ調方式等
の FM/SW/MW/LW の局部発振信号を用いて 受信周波数を
デジタル表示できる、
5. 3 種類の MW/LW 中間周波数に適應できる (+450, +455,
+469 kHz)、
6. 2 種類の FM 中間周波数に適應できる (+10.7, -10.7kHz)、
7. 可変抵抗で微調することにより 446~472 kHz の SW 中間周波数に適應できる、
8. FM/MW/LW の表示周波数のスレを 独立に微調できる、
MW および LW ----- 可変抵抗で ±2.8 kHz 補正できる、
FM ----- 可変抵抗で ±140 kHz 補正できる、
9. FM につき 12 時間表示方式と 24 時間表示方式との切り換えができる (PM は修正時のみ表示)、

○ 関連製品については 次ページ参照。

次ページへ続く。

目 次	
○ 用途、機能、特長、外形	p 1
関連製品	p 2
1. 応用システムブロック図	p 2
2. 応用回路例	
2-1) FM5桁, MW4桁 (SW表示なし)	p 3
時計つきの場合	
2-2) 周波数表示のみの回路例	p 3
3. 各モードの表示例	p 5
4. ピン配置図	p 6
5. 等価回路ブロック図	p 7
6. 表示	p 7
7. 入出力信号	p 7
8. 各端子の説明	p 8
9. 周波数表示スレの微調法	p10
9-1) FM周波数 (5桁) 表示の場合	p10
9-2) AM周波数 (MW4桁) 表示の場合	p10
9-3) その他の場合	p10
10. タイミングチャート	p10
11. 応用回路例 2-1 図の操作法の説明	p12
11-1) 表示モードの切り換え	p12
11-2) 周波数表示でのバンド切り換え	p13
11-3) 時計表示モードの切り換え	p13
11-4) 時分修正方法	p13
11-5) 月日修正	p14
11-6) ストップウォッチ動作	p15
12. 主な仕様	p16
13. 主な特性	p17

外形図 3014
(unit: mm)

前ページから続く、

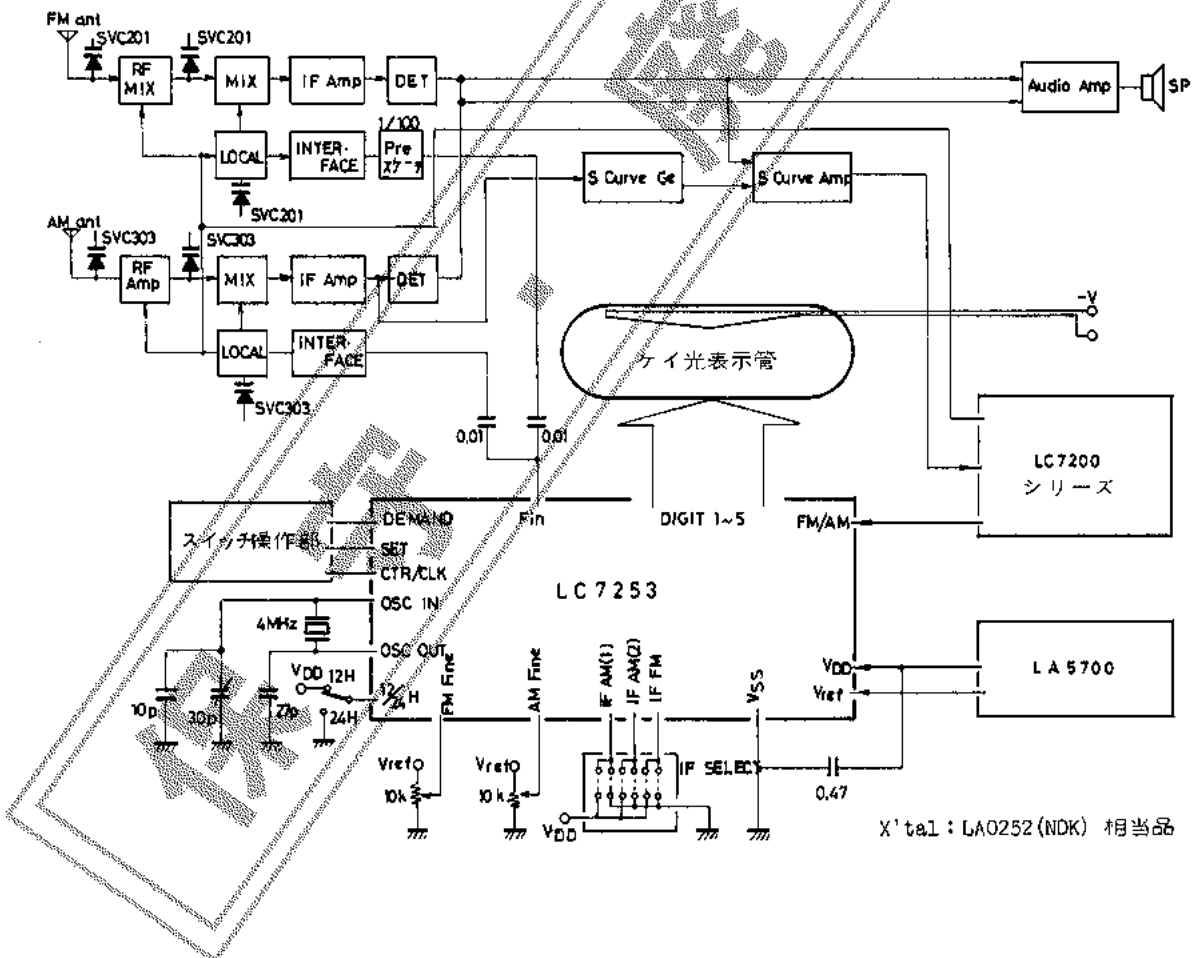
10. 大の月(31日の月)、小の月(30日の月)のプログラムつき(2月 は 29日まわり)。
11. 時報合わせが簡単にできる。
12. ストップ ウォッチは 1 秒から 12 時間 59分 59秒まで 計数表示できる。
13. 表示を消灯させ 時刻修正を禁止するインヒビット機能つき。
14. 基準周波数用として 4 MHz の水晶を使用する。

■ 関連製品

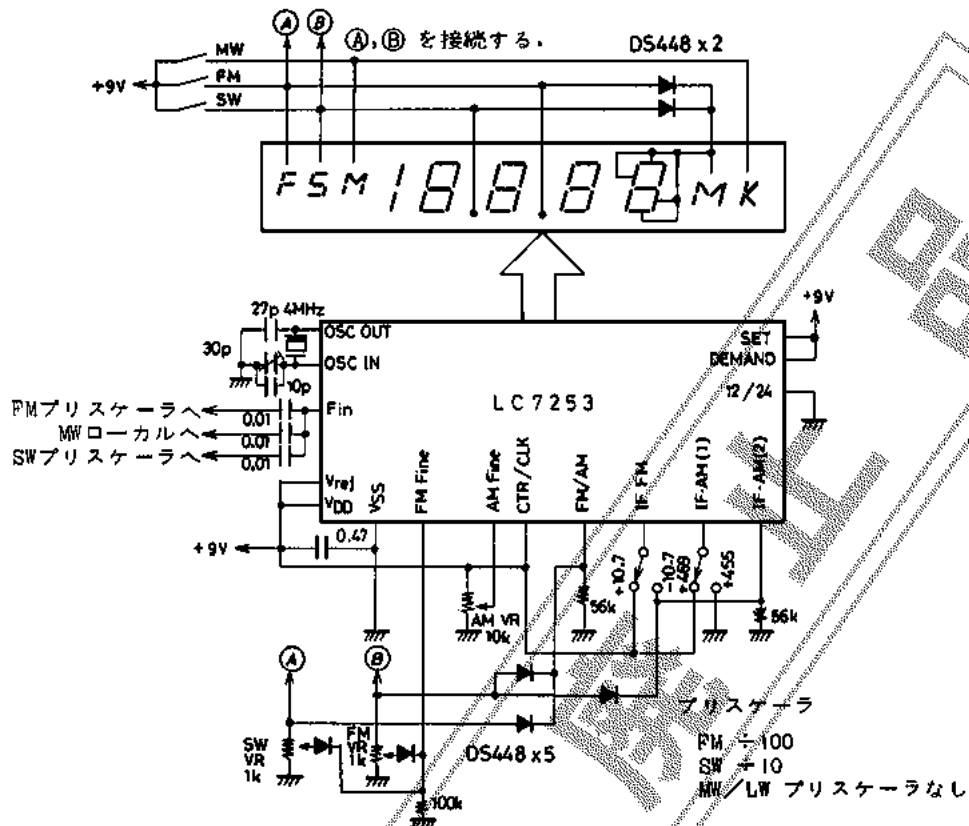
・デジタル周波数表示用 LSI LC7250 シリーズには 次の機種がある。

機能	LC7250	LC7253	LC7253G	LC7258	LC7257
表示管	LED	ケイ光表示管	LED	ケイ光表示管	LED
表示桁数	4	5(5桁目 0 or 5)	5(5桁目 0 or 5)	5(5桁目 0or5)	5(5桁目 0or5)
バンド	FM/MW/LW	FM/SW/MW/LW	FM/SW/MW/LW	FM/SW/MW/LW	FM/SW/MW/LW
時計機能	有	有	有	無	無

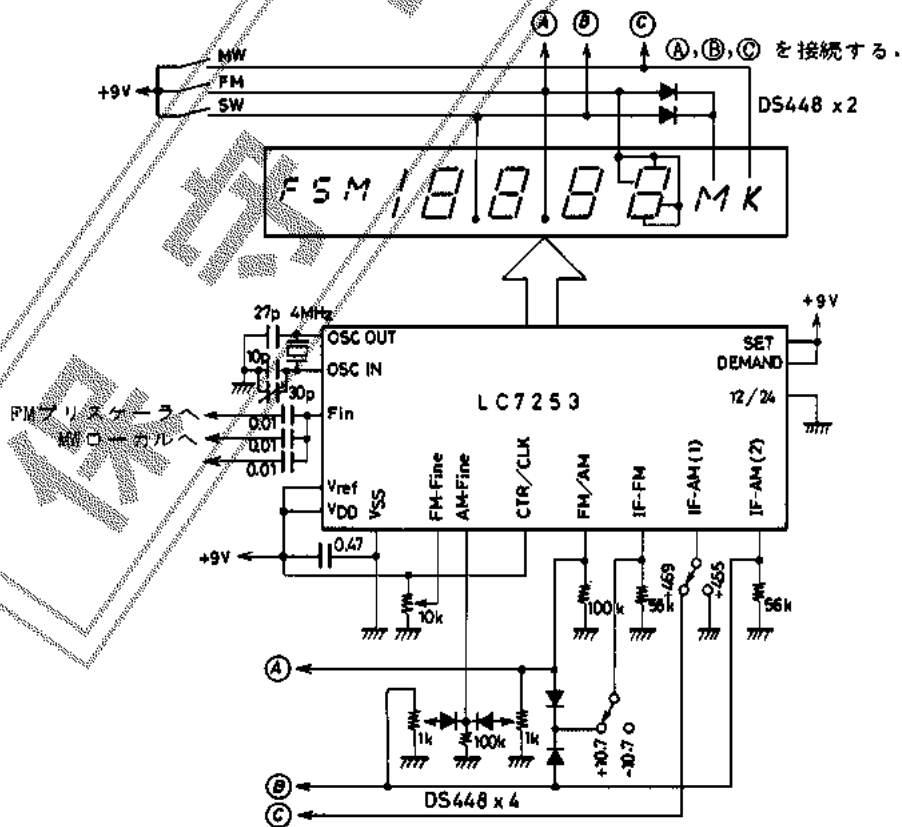
1. LC7253 応用システム ブロック図



㊦. FM 5 桁, SW 5 桁, MW 4 桁の場合

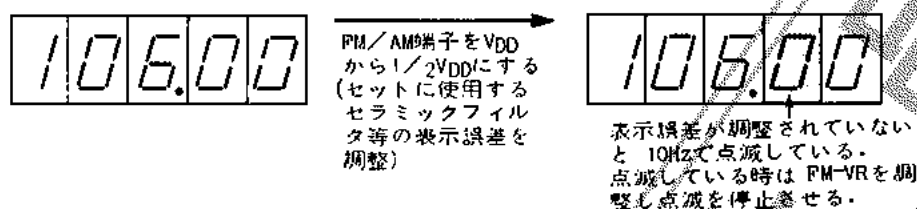


㊧. FM 5桁, SW 4 桁, MW 4 桁の場合



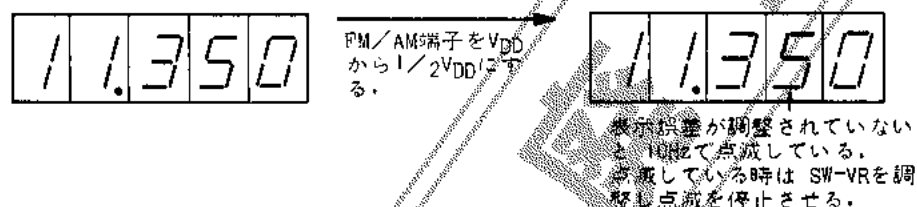
3. 各モードの表示例

3-1) FM 表示: 106 MHz を受信している時の表示

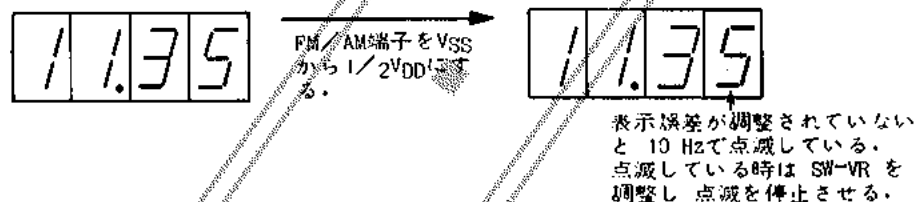


3-2) SW 表示: 11350 kHz を受信している時の表示

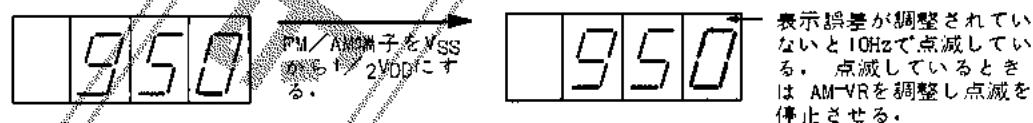
◎ SW 5桁の時



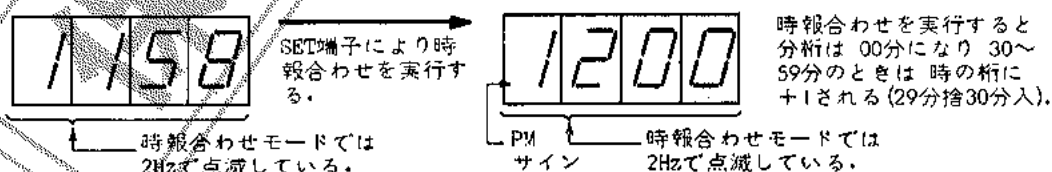
◎ SW 4桁の時



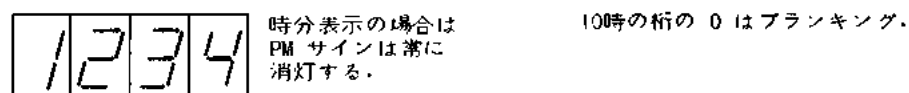
3-3) AM 表示: 950 kHz を受信している時の表示



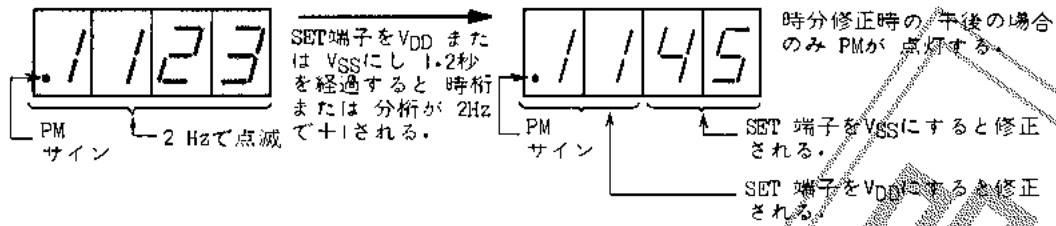
3-4) 時報合わせ: PM 12:00 に時報合わせをする時



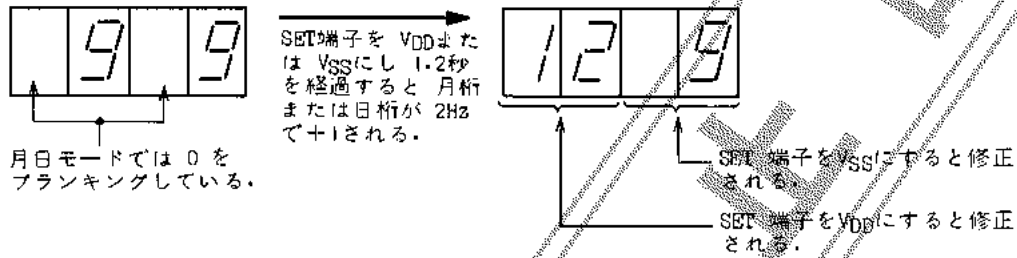
3-5) 時分表示: PM 12:34 を表示する時



3-6) 時分修正 : PM 11:23 から 11:45 へ修正する時

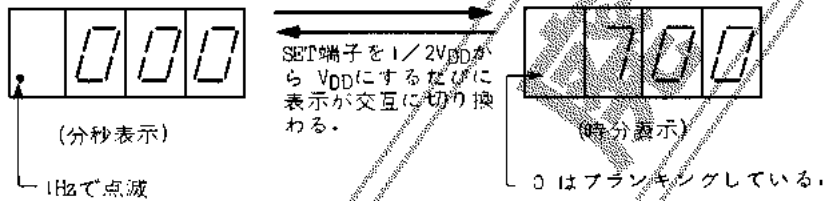


3-7) 月日表示 および 修正 : 9月 9日から 12月 9日へ修正する時

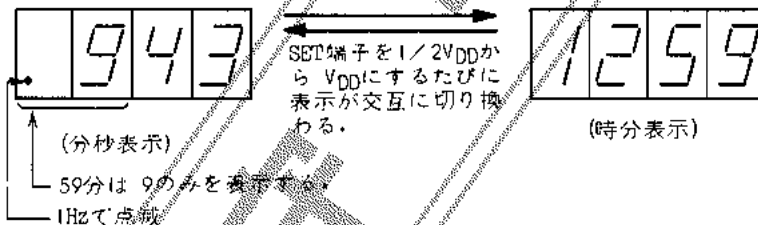


3-8) ストップウォッチ表示

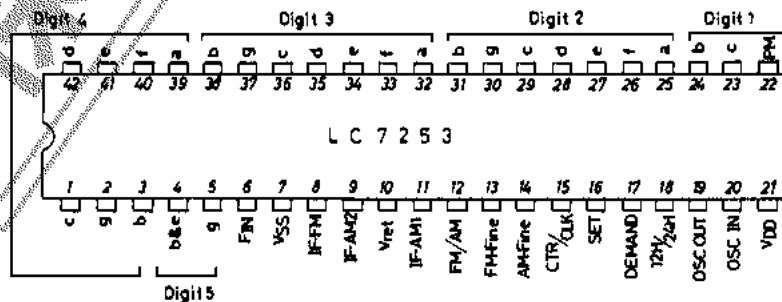
◎ 7時間 00分 00秒の時



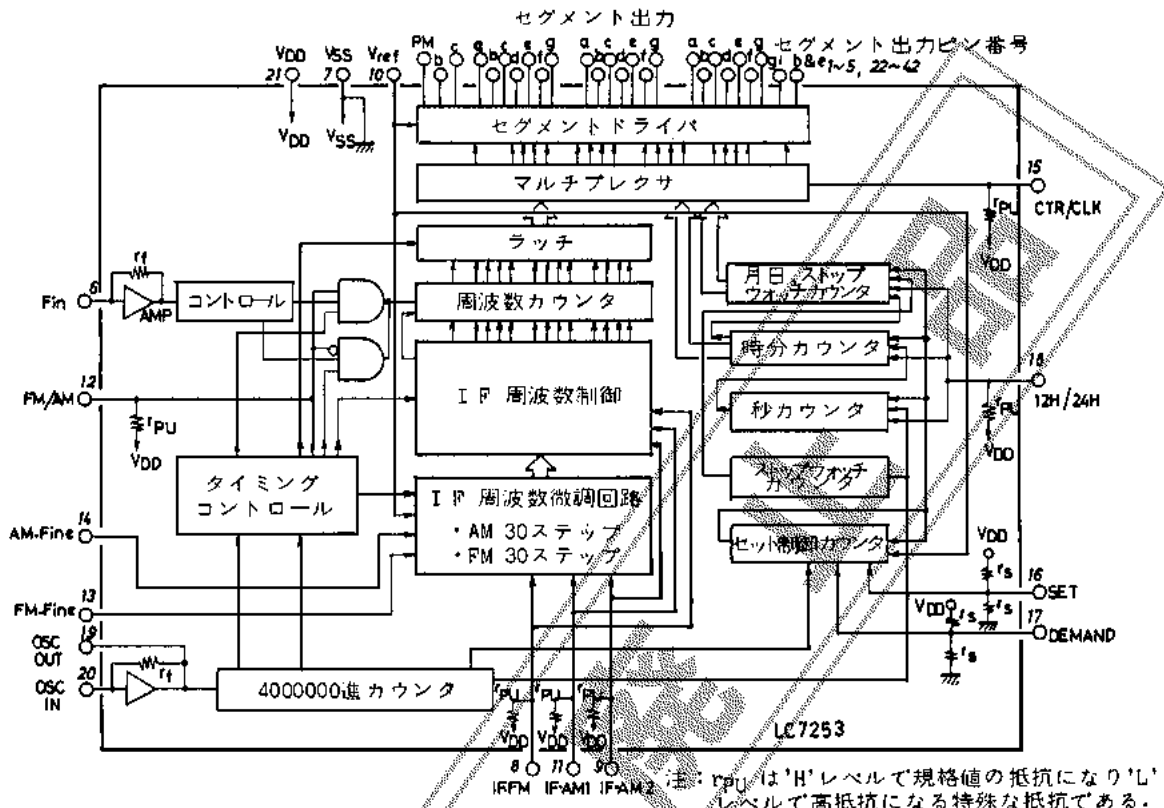
◎ 12時間 59分 43秒の時



4. ピン配置図



5. 等価回路ブロック図



6. 表示

6-1) 構成 および 字体

4 $\frac{1}{2}$ 桁 7 セグメントケイ光表示管を使用し、時刻および周波数を下記の字体で表示する。

字体

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

6-2) 点灯方式

- ・スタティック点灯

6-3) 表示範囲

- ・周波数 (MHz/LW)
 - 000 kHz~1999 kHz (上位 1桁「0」ブランキング)。
- ・周波数 (SW)
 - 4 桁の時 0.00~19.99 MHz (上位 1桁「0」ブランキング)
 - 5 桁の時 0.000~19.995 MHz (上位 1桁「0」ブランキング)
- ・周波数 (FM)
 - 00.00 MHz~99.95 MHz (上位 1桁「0」ブランキング)
- ・クロック (12 時間)
 - 1:00~PM 12:59 (上位 1桁「0」ブランキング)。
- ・クロック (24時間)
 - 0:00~23:59 (上位 1桁「0」ブランキング)。

7. 入出力信号

- ・ストップ ウォッチ (分秒)
 - 0分 00秒~9分 59秒 (上位 1桁 ブランキング)。
- ・ストップ ウォッチ (時分)
 - 0時 00分~12時 59分 (上位 1桁「0」ブランキング)
- 7-1) スイッチ信号
 - ・論理「H」 VDD
 - ・論理「M」 $\frac{1}{2}V_{DD}$ (V_{DD} と V_{SS} の中間レベル)
 - ・論理「L」 VSS
- 7-2) Fin 端子入力信号
 - ・振幅 0.7 V 以上

次ページに続く。

前ページから続く。

- ・ Fin 端子入力 信号
PM: 2.0 MHz 以下 (PM の局部発振周波数を 1/100 に分周して入力する)。
SW: 2.5 MHz 以下 (SW の局部発振周波数を 1/10 に分周して入力する)。

MW/LW: 2.5 MHz 以下

7-3) 基準周波数 4.000000 MHz の水晶を使用する。

7-4) セグメント出力

P チャネル オープンドレイン方式

8. 各端子の説明

8-1) CTR/CLK (カウンタ および クロック) 入力端子

- ・ 周波数表示と時計 および ストップ ウォッチの 3 機能切り換え入力端子。
- ・ 「L」レベル ----- 時分および月日表示。
- ・ 「M」レベル ----- 時分およびストップウォッチ表示。
- ・ 「H」レベル ----- 周波数カウンタ表示。

8-2) FM/AM (FM および AM の切り換え) 入力端子

- ・ 周波数カウンタ および 周波数コントロールを FM または AM 用に切り換えるための入力端子。
- ・ 「L」レベル ----- AM 表示 or SW 4桁表示。
- ・ 「H」レベル ----- FM 表示 or SW 5桁表示。

8-3) IF-FM (FM 中間周波数設定) 入力端子

- ・ FM の中間周波数を指示する入力端子。ただし FM/AM = 「H」, IF-AM (2) = 「L」レベルのこと。
- ・ 中間周波数は -10.7 MHz, +10.7 MHz に適用できる。
- ・ 「L」レベル ----- -10.7 MHz
- ・ 「H」レベル ----- +10.7 MHz

8-4) AM の中間周波数の設定法

- ・ MW あるいは LW の設定法

FM/AM	IF-FM	IF-AM (1)	IF-AM (2)	IF 周波数
「L」	「H」, 「L」	「L」	「L」	+455 kHz
「L」	「H」, 「L」	「H」	「L」	+469 kHz
「L」	「L」	「H」, 「L」	「H」	+450 kHz

- ・ SW の設定法

FM/AM	IF-FM	IF-AM (1)	IF-AM (2)	IF 周波数	桁数
「H」	「H」	「H」, 「L」	「H」	446 ~ 472 kHz	5桁
「L」	「H」	「H」, 「L」	「H」	416 ~ 472 kHz	4桁

8-5) FM-Fine (中間周波数微調) 入力端子

- ・ FM の IF 用セラミック フィルタによる受信周波数の表示のズレを補正する微調入力端子 および 5 桁の SW 表示の時の IF 用セラミック フィルタによる受信周波数の表示のズレを補正する微調入力端子。
- ・ Vref-VSS 間に ボリュームを挿入し 分割された電圧を入力する。

8-6) AM-Fine (中間周波数微調) 入力端子

- ・ AM の IF 用セラミック フィルタによる受信周波数の表示のズレを補正する微調入力端子。および 4桁の SW 表示の時の IF 用セラミック フィルタによる受信周波数の表示ズレを補正する微調入力端子。
- ・ Vref-VSS 間に ボリュームを挿入し 分割された電圧を入力する。
- ・ FM-Fine, AM-Fine の微調範囲
 ◇ FM の時: FM-Fine で 10.60 MHz ~ 10.80 MHz の間を 10 kHz/step で 28 step 調整可能 (±140 kHz)。
 ◇ MW/LW の時: AM-Fine で IF 周波数を中心とした 0.2 kHz/step で 28 step 調整可能 (±2.8 kHz)。
 ◇ 5 桁の SW の時: FM-Fine で 446 ~ 472 kHz の間を 1 kHz/step で調整可能。
 ◇ 4 桁の SW の時: AM-Fine で 416 ~ 472 kHz の間を 2 kHz/step で調整可能。

8-7) Fin (周波数) 入力端子

- ・ FM 表示の場合は FM の局部発振器の 1/100 の周波数を印加し SW 表示の場合は 短波の局部発振器の 1/10 の周波数を印加し MW 表示の場合は 中波の局部発振器の周波数を印加するための入力端子。
- ・ 入力電圧が 0.7 Vpp 以上の信号を入力すること (正弦波でも可能, < 形波の時 duty 50%)。
- ・ 周波数の最大値 2.5 MHz (AM)
2.0 MHz (FM)

8-8) OSC IN, OSC OUT (水晶発振)

- ・ 水晶発振用入出力端子。
- ・ 水晶 (4.000000 MHz) を接続する入出力端子。

8-9) DEMAND (時刻読み出し) 入力

- ・ 時分読み出し および修正, 月日読み出し および修正 と ストップ ウォッチ モードの指示入力端子。

CTR/CLK	DEMAND	状 態
「M」/「L」	「H」	時報合わせ および 時分修正モード。
「M」/「L」	「M」	時刻表示。
「L」	「L」	月日表示 および 月日修正モード
「M」	「L」	ストップ ウォッチ モード

- (注) 月日モードからストップ ウォッチ モードまたは ストップ ウォッチ モードから月日修正モードに切り換えるには 次の方法で行なえる。
- ・ 月日修正モードからストップ ウォッチ モードにする場合。
- 次ページへ続く。

前ページから続く。

CTR/CLK=「M」, DEMAND=「L」, SET=「L」(1.2 秒以上)。

- ・ストップ ウォッチ モードから 月日修正モードにする場合。

CTR/CLK=「L」, DEMAND=「L」, SET=「L」or「H」(1.2 秒以上)。

◇時報合わせモードでは 全表示桁が点滅(2Hz)する。

8-10) SET (時刻修正) 入力端子

- ・時、分、月、日 修正 および ストップ ウォッチ のスタート、ストップ、クリアを行なう入力端子(対応式)。

この入力端子の通常位置は「M」レベルであり「H」レベル、「L」レベルの入力信号は 次の 6通りの働きをする。

- ・時報合わせ および 時分修正モードの場合(CTR/CLK=「L」 or 「M」)。

1) 「H」レベル

- ・時分修正実行。
- ・「H」レベル後 1.2 秒経過したのち 2 Hz で「+」される。

2) 「L」レベル

◎時報合わせ および 分析修正実行。

- ・「L」レベル 後 1.2 秒経過したのち 2 Hz で「+」される。
- ・「L」レベル 後 1.0 秒以内に off した場合 時報合わせが実行される。(29分捨 30分入)
なお 修正中は 修正を実行している上の桁へのキャリは禁止している。

◎月日修正モードの場合(CTR/CLK=「L」)。

3) 「H」レベル

- ・月日修正実行。
- ・「H」レベル後 1.2 秒経過したのち 2 Hz で「+」される。

4) 「L」レベル

- ・日分修正実行。
- ・「L」レベル後 1.2 秒経過したのち 2 Hz で「+」される。
- なお 修正中は 月日へのキャリは禁止している。

◎ストップ ウォッチ モードの場合(CTR/CLK=「M」)。

5) 「L」レベル

- ・分秒表示、時分表示 および クリア。
- ・「L」レベル 後 1.2 秒経過したのち カウンタをクリアする(表示 0:00 秒)。
- ・「L」レベル 後 1.0 秒以内に off すると 分秒表示と 時分表示が交互に繰り返えすことができる。
- ・分秒表示を示すために PM 出力端子が 1Hz で on, off する。

6) 「H」レベル

- ・スタート および ストップ

・「L」レベル、「M」レベルを繰り返えすことにより スタート、ストップが交互に繰り返えされる。なお クリア時は カウントストップ状態でかつ 分秒表示となり PM 端子が 1 Hz で on, off している。

8-11) Vref 端子(インヒビット機能を兼ねる)

- ・PM-Fine, AM-Fine の基準電圧である。
- ・この端子は セグメント端子を off させ SET および DEMAND 端子の機能を禁止し F1Rのアンプを動作させないようにする インヒビット機能も有する。この端子は 特に 車載で使用するとき エンジン停止した状態で 消費電流を少なくするのに有効である。

「H」レベル 通常の動作状態

「L」レベル セグメント端子 off, SET, DEMAND 端子機能禁止

「L」レベル時に SET および DEMAND 端子の機能を禁止するのは 表示が消えている状態で誤って時刻修正されることを防止するためであり また アンプの動作を停止するのは アンプ内で消費する電流を少なくするためである。

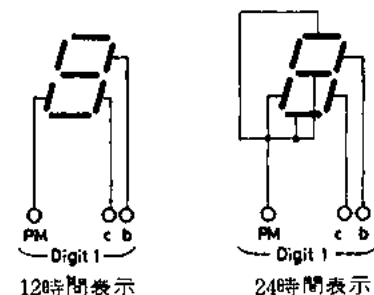
8-12) (12H/24H(時間切り換え)) 入力端子

- ・時計の表示を PM つき 12 時間と 24 時間方式とを 切り換えるための入力端子である。

「H」レベル PM つき 12 時間方式(PM は 時分修正モードのときのみ表示する)。

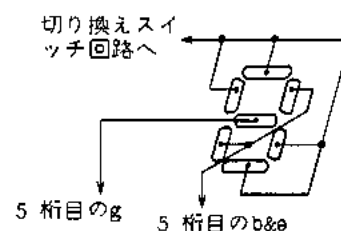
「L」レベル 24 時間方式

- ・接続方法は 下図のように行なう。



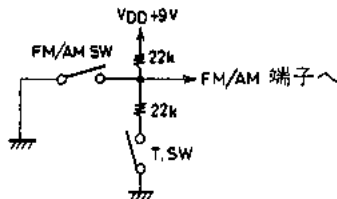
8-13) 5 桁目の接続方法

- ・5 桁目は PM/AM=「H」の時のみ表示される。



9. 周波数表示ズレの微調法 (2-1の図を参照)。

周波数表示の状態(CLK スイッチ および STW スイッチが off)で FM/AM 端子を「M」レベルにすることにより実施する。



FM/AM 端子を $1/2V_{DD}$ にするための回路例とその操作方法。

次に その手順を示す。

9-1) FM周波数(5桁)表示の場合(5 ページ参照)

項 目	FM/AM, SW	T.SW
① FM表示にする	off	off
② 例えば80.00MHzを受信して FMの局部発振周波数を1/100分周してPin端子に入力する。	off	off
③ FM/AM 端子を $1/2V_{DD}$ にする。	off	on
④ FM VRを調整して 表示が80.00となり しかも 4桁目の点滅が止まるようにする。	off	on
⑤ FM/AM端子を V_{DD} にする。	off	off
⑥ 調整完了		

9-2) AM 周波数(MW 4桁)表示の場合(5 ページ参照)

項 目	FM/AM, SW	T.SW
① AM 表示にする	on	off
② 例えば950kHzを受信して AMの局部発振周波数を Pin端子に入力する。	on	off
③ FM/AM 端子を $1/2V_{DD}$ にする。	on	on
④ AM VR を調整して 表示が 950となり しかも 4桁目の点滅が止まるようにする。	off	on
⑤ FM/AM端子を V_{SS} にする。	on	off
⑥ 調整完了		

←この状態を
経過すること。

9-3) その他の場合

2-1)の図以外の例として FM 4桁と SW 5桁 および SW 4桁の場合について説明する。

① FM 4桁の場合。

9-1 ③ の状態で FM=VR を調整して表示が 80.0 になり、しかも デイジット 5 の セグメントが「L」から「H」に変化する時点が最良点である。

② SW 5桁の場合。

9-1 に示す手順に従って調整する。ただし SW の局部発振周波数を Pin 端子に入力して SW=VR を調整することになる。

③ SW 4桁の場合。

9-3 ① と同じ手順で調整する。ただし SW の局部発振周波数を Pin 端子に入力して SW=VR を調整することになる。

注) 微調のときの動作について

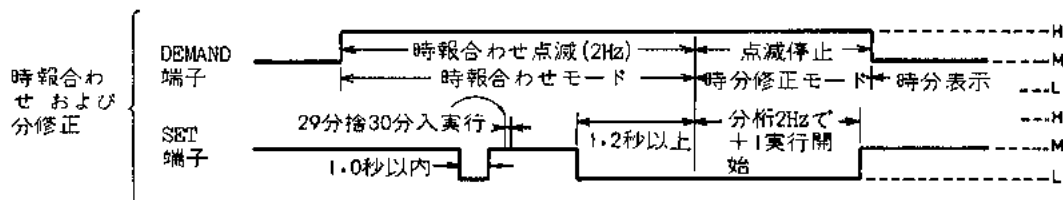
FM 5桁表示の場合 5桁目のカウンタが 0~4 の時 0 表示、5~9 の時 5 表示している。

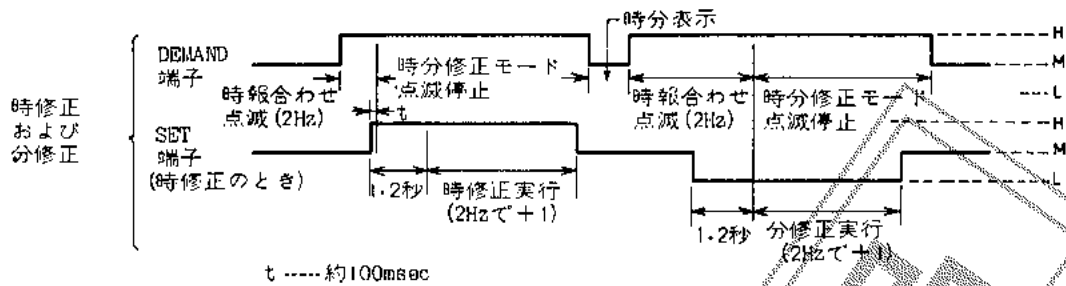
FM/AM 端子を V_{DD} から $1/2V_{DD}$ にして調整している時は 5桁目が 2 または 7 の時 点滅を止め それ以外の時は 10 Hz で点滅させている。SW 5桁の時も同様である。

AM 4桁の時 5桁目を切り捨てている。FM/AM 端子を V_{SS} から $1/2V_{DD}$ にして調整している時は 5桁目が 4、または 5 の時 点滅を止め それ以外では 10 Hz で点滅させている。したがって 上記 9-2 の例では 受信周波数が 950 kHz $\pm$ 400 Hz の範囲で 950 表示を行なうことになる。

10. タイミングチャート

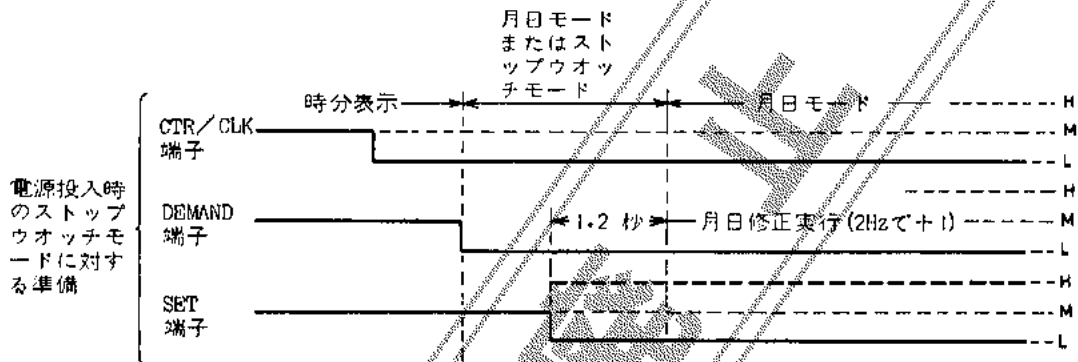
10-1) 時刻修正使用時のタイミングチャート(CTR/CLK=「L」または「H」)



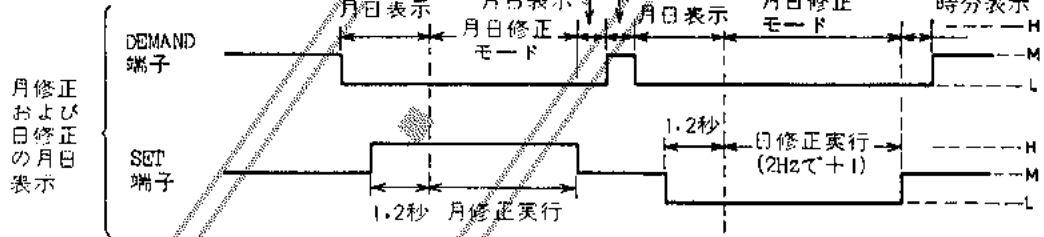


10-2) 月日使用時のタイミングチャート

- 電源を投入した時は 月日 および ストップ ウォッチ カウンタが どちらにセットされているかわからないので つぎのようにして 月日機能にすることが必要である。

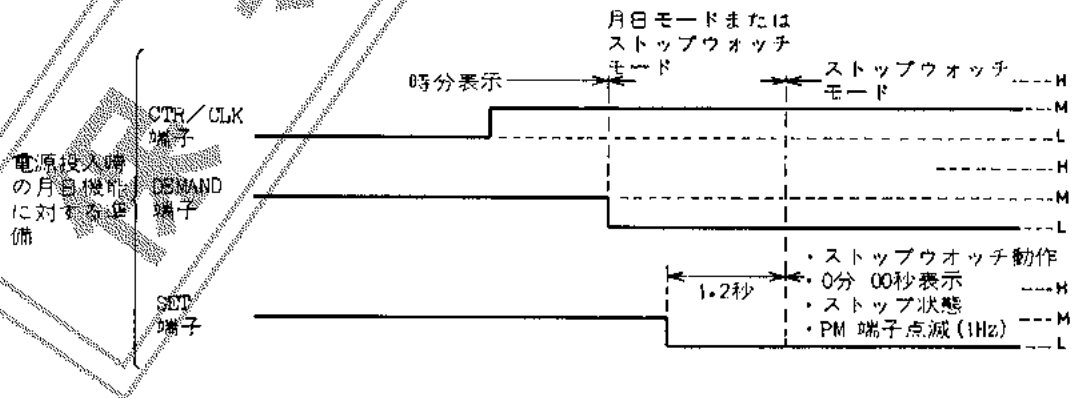


・月日修正

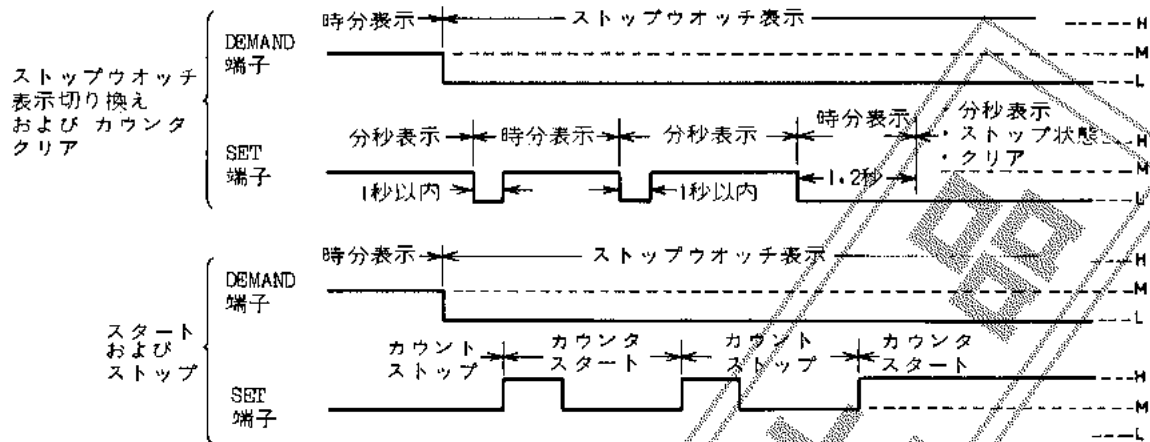


10-3) ストップウォッチ使用準備のタイミングチャート

- 電源を投入したとき 月日 および ストップ ウォッチ カウンタが どちらになっているかわからないので つぎのようにして ストップウォッチ機能にする必要がある。



・ストップウォッチ操作のタイミングチャート

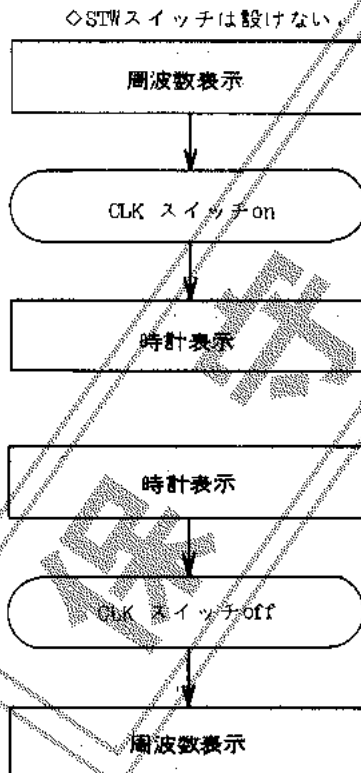


11. 応用回路例 2-1図の操作法の説明

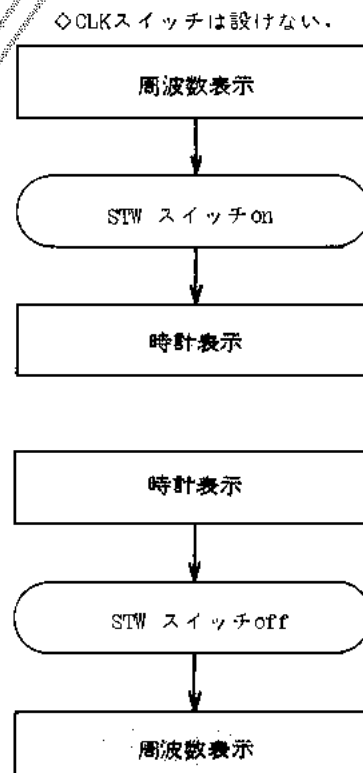
2-1 図の操作法について 以下にフローチャートを用いて説明する。なお LSI 内では 月日とストップウォッチ機能のどちらか一方が使用できる。この例において CLK スイッチのみを設ければ 月日機能つき時計となり 逆に STW スイッチのみを設ければ ストップウォッチ機能つき時計となる (ただし 両スイッチを設ければ 両機能の切り換えも可能である)。

11-1) 表示モードの切り換え

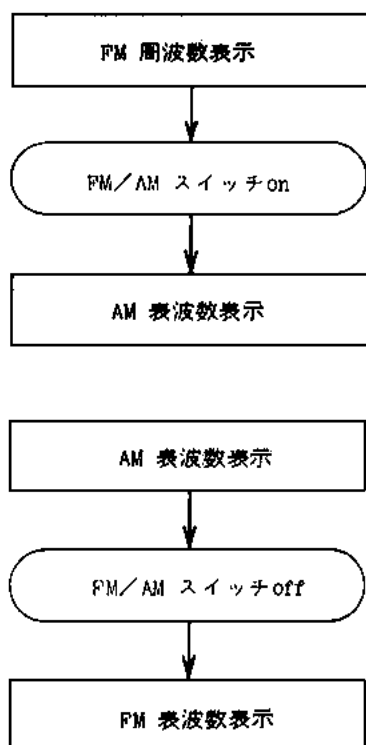
① 月日機能つき時計



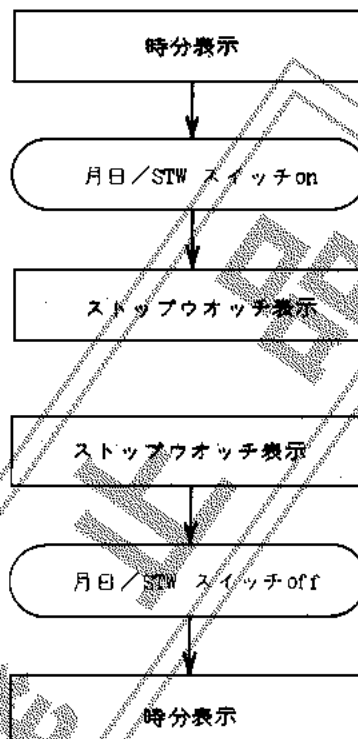
② ストップウォッチ機能つき時計



11-2) 周波数表示でのバンド切り換え

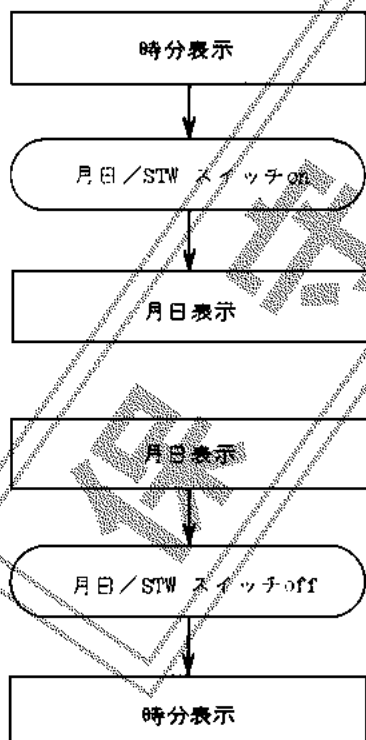


➡ ㊸ ストップウォッチ機能付きの時計の時



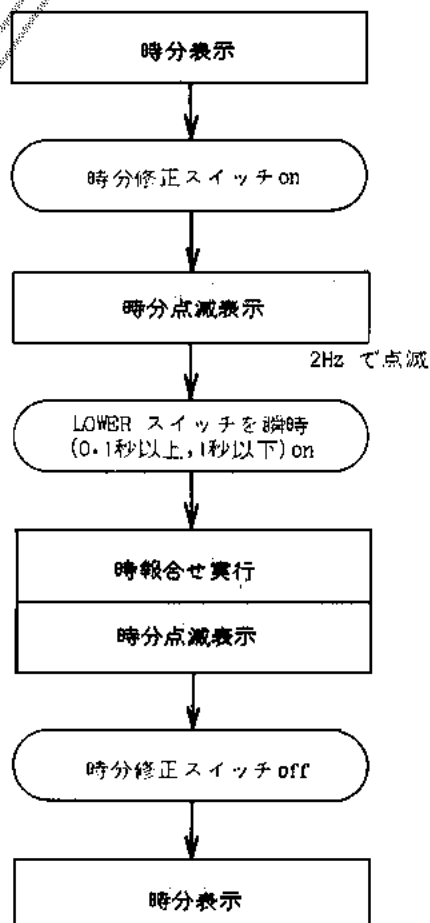
11-3) 時計表示モードの切り換え

㊸ 月日機能つき時計の時

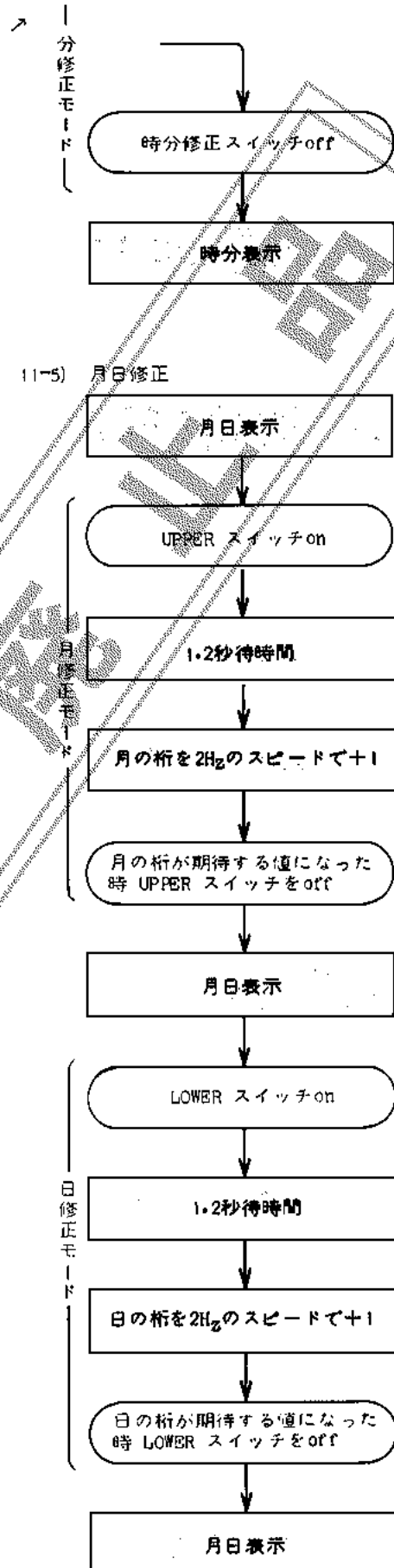
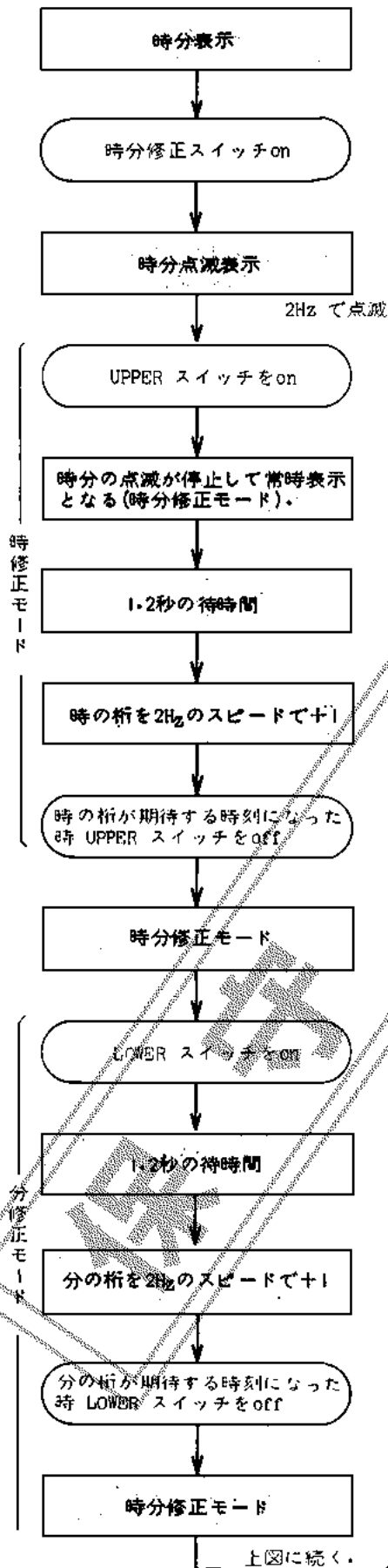


11-4) 時分修正方法

㊸ 時報合わせ

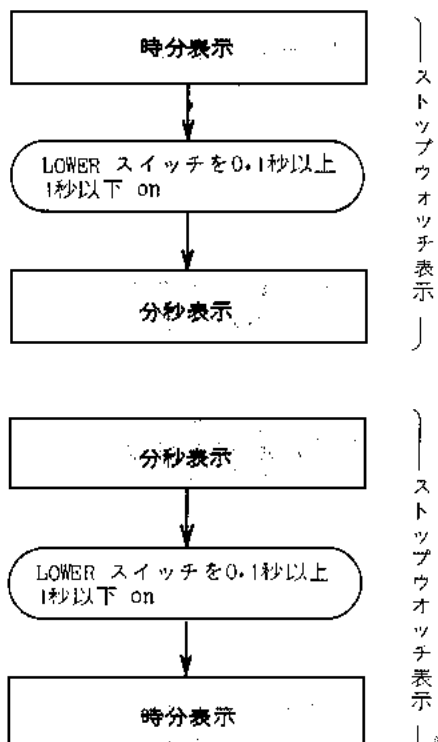


⑩ 時分修正

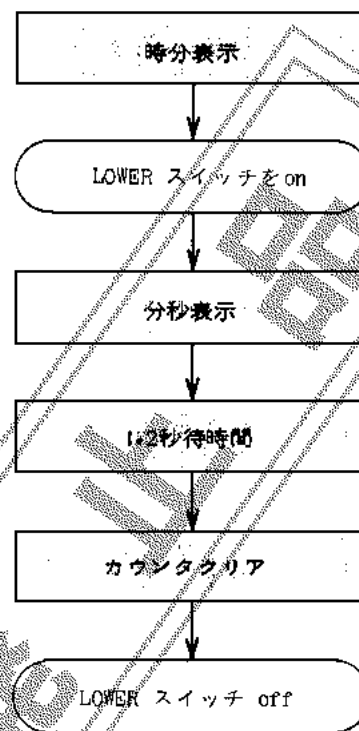


11-6) ストップ ウォッチ動作

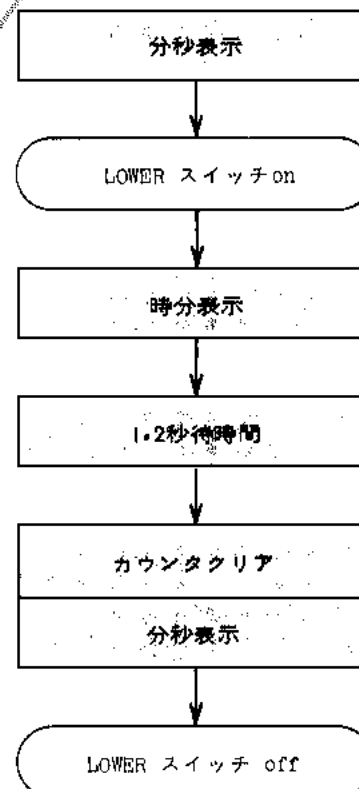
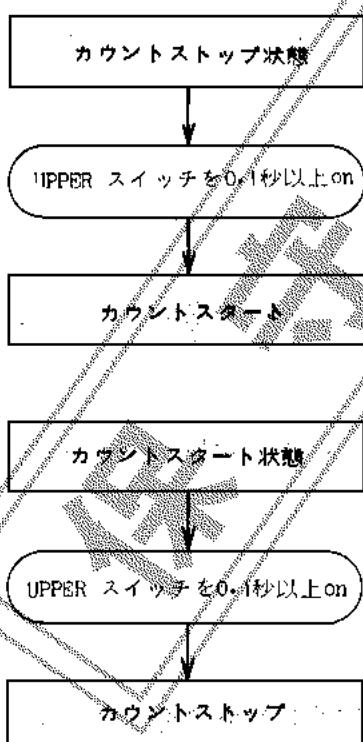
① 時分と分秒の切り換え



② クリア



③ スタート および ストップ



12. 主な仕様

絶対最大定格/ $T_a=25^{\circ}\text{C}$, $V_{SS}=0\text{V}$

最大定格 / T _a = 25°C, V _{SS} = 0V			unit
最大電源電圧	V _{DD max}	-0.3 ~ +11	V
基準電圧	V _{ref} V _{ref} ≤ V _{DD}	-0.3 ~ +11	V
入力電圧	V _I	-0.3 ~ V _{DD} + 0.3	V
出力電圧	V _O 出力off状態	V _{DD} - 20 ~ V _{DD} + 0.3	V
許容消費電力	P _{d max} T _a ≤ +75°C	400	mW
セグメント出力許容消費電力	P _{d (seg)} PMの場合 I _{OH} < 9mA	10	mW
	b & eの場合 I _{OH} < 6mA	7	mW
	上記以外の場合 I _{OH} < 3mA	3.5	mW
動作周囲温度	T _{opg}	-30 ~ +75	°C
保存周囲温度	T _{stg}	-40 ~ +125	°C

許容動作範囲/ $T_a=25^{\circ}\text{C}$, $V_{SS}=0\text{V}$, $V_{DD}=7.0 \sim 10.0\text{V}$, $V_{ref}=7.0 \sim 10.0\text{V}$, $V_{ref} \leq V_{DD}$, ($V_{ref}=0\text{V}$, $V_{DD} < 7.0\text{V}$.)

			min	typ	max	unit
電源電圧	$V_{DD}(1)$ 全ファンクション動作		7.0		10.0	V
	$V_{DD}(2)$ 時計動作のみ		4.3	5.0	7.0	V
基準電圧	$V_{ref}(1)$ 表示点灯時 $0.8V_{DD} \leq V_{ref} \leq V_{DD}$		7.0		10.0	V
	$V_{ref}(2)$ 表示消灯時		0		0.12 V_{DD}	V
「H」レベル入力電圧	$V_{IH}(1)$ SET, DEMAND, CTR/CLK		0.88 V_{DD}		V_{DD}	V
「L」レベル入力電圧	$V_{IL}(1)$ " " "		0		0.12 V_{DD}	V
「M」レベル入力電圧	V_{IM} " " "		0.36 V_{DD}		0.64 V_{DD}	V
「H」レベル入力電圧	$V_{IH}(2)$ FM/AM, 12H/24H, IF-FM, IF-AM(1), IF-AM(2)		0.85 V_{DD}		V_{DD}	V
「L」レベル入力電圧	$V_{IL}(2)$ " " "		0		0.12 V_{DD}	V
入力周波数	$f_I(1)$ Fin(FM/AM=「H」) $V_{pp} \geq 0.7\text{V}$ duty=50%		0.6		2	MHz
	$f_I(2)$ Fin(FM/AM=「L」) $V_{pp} \geq 0.7\text{V}$ duty=50%		0.4		2.5	MHz
動作周波数	f_{opg} OSC-IN, OSC-OUT, 4MHz, X'tal 外付け		3.5		4.2	MHz
入力振幅	V_{pp} Fin($V_{DD}-V_{SS}$ 間) $\pm 0.47\mu\text{F}$ の セラミックコンデンサ 挿入)		0.7			Vp-p

電氣的特性/ $T_a=25^{\circ}\text{C}$, $V_{SS}=0\text{V}$, $V_{DD}=8 \sim 10\text{V}$, $V_{ref}=8 \sim 10\text{V}$, $V_{ref} \leq V_{DD}$.

			min	typ	max	unit
入力電流	I_{IN} FM-Fine, AM-Fine, $V_I=0\text{V}$ or V_{ref} .		-1		1	μA
「H」レベル入力電流	$I_{IH}(1)$ IF-FM, IF-AM(1), IF-AM(2), CTR/CLK, 12H/24H, $V_I=0.9V_{DD}$		-80	-30	-10	μA
「L」レベル入力電流	$I_{IL}(1)$ IF-FM, IF-AM(1), IF-AM(2), CTR/CLK, 12H/24H, $V_I=0\text{V}$		-3		0	μA
「H」レベル入力電流	$I_{IH}(2)$ FM/AM, $V_I=0.9V_{DD}$		-40	-15	-5	μA
「L」レベル入力電流	$I_{IL}(2)$ FM/AM, $V_I=0\text{V}$		-3		0	μA
中点設定用抵抗	r_s SET, DEMAND		40	70	100	k Ω
入力フローティング電圧	V_{IF} SET, DEMAND, 入力フローティング		0.45 V_{DD}		0.55 V_{DD}	V
フィードバック抵抗	$r_f(1)$ OSC IN, OSC OUT間のフィードバック抵抗			3		M Ω
	$r_f(2)$ Finのフィードバック抵抗			3		M Ω
「H」レベル出力電圧	$V_{OH}(1)$ PM, $V_{DD}=8.0\text{V}$, $I_{OH}=-6\text{mA}$	$V_{DD}-0.6$				V
	$V_{OH}(2)$ b&e, $V_{DD}=8.0\text{V}$, $I_{OH}=-4\text{mA}$	$V_{DD}-0.6$				V
	$V_{OH}(3)$ 上記以外のセグメント出力, $V_{DD}=8.0\text{V}$, $I_{OH}=-2\text{mA}$	$V_{DD}-0.6$				V
出力リーク電流	I_{OFF} 全てのセグメント出力端子, $V_{DD}=10\text{V}$, $V_{OUT}=-8\text{V}$		-3		0	μA

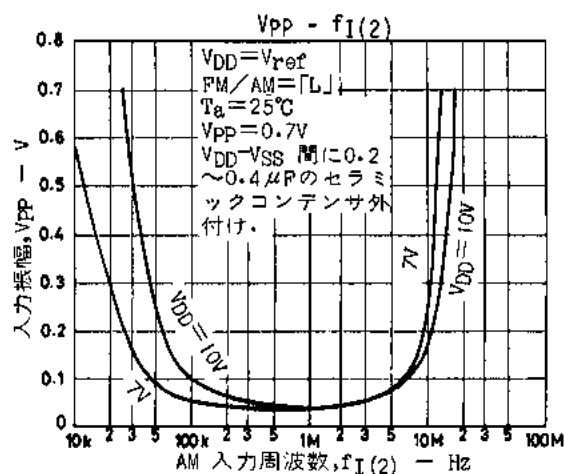
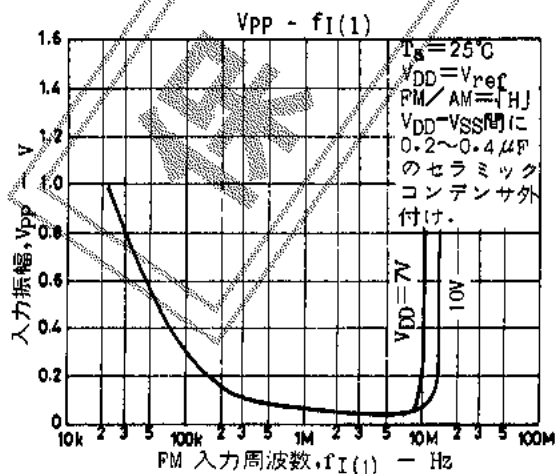
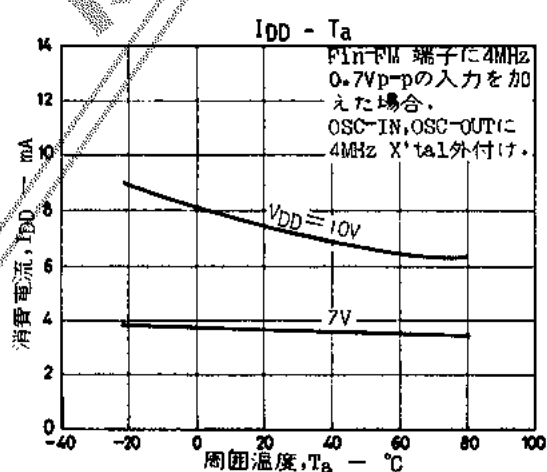
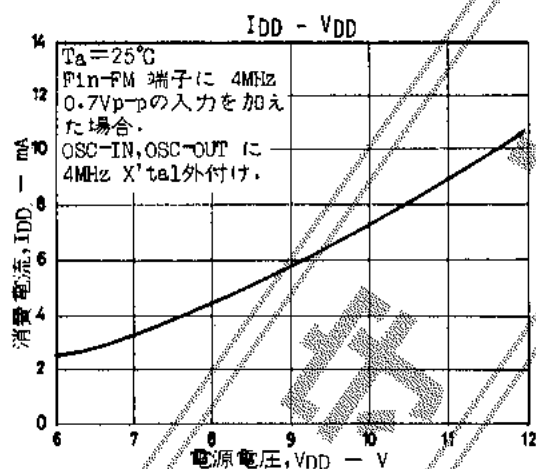
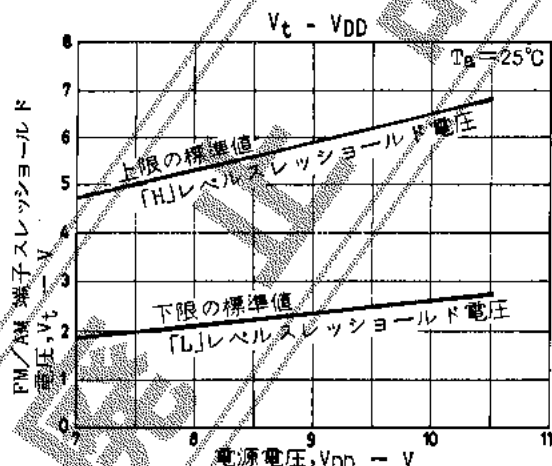
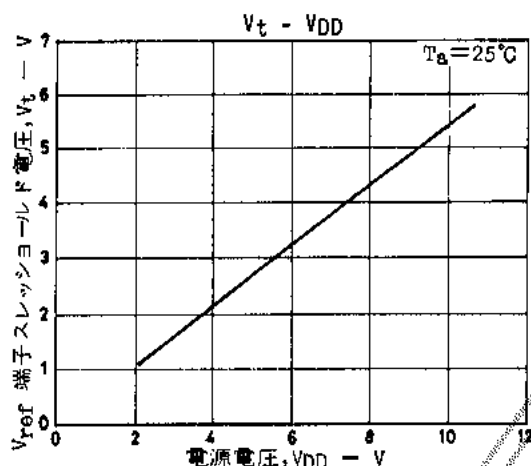
次ページに続く。

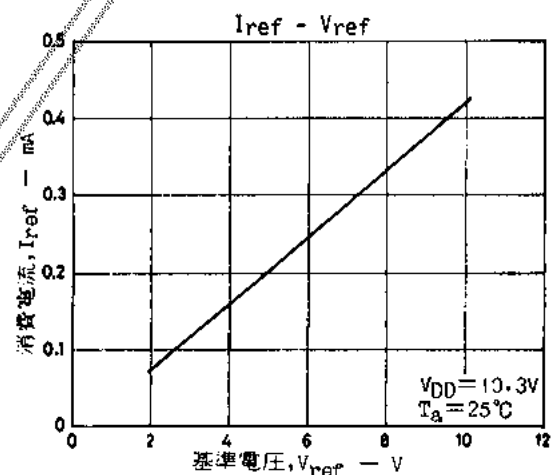
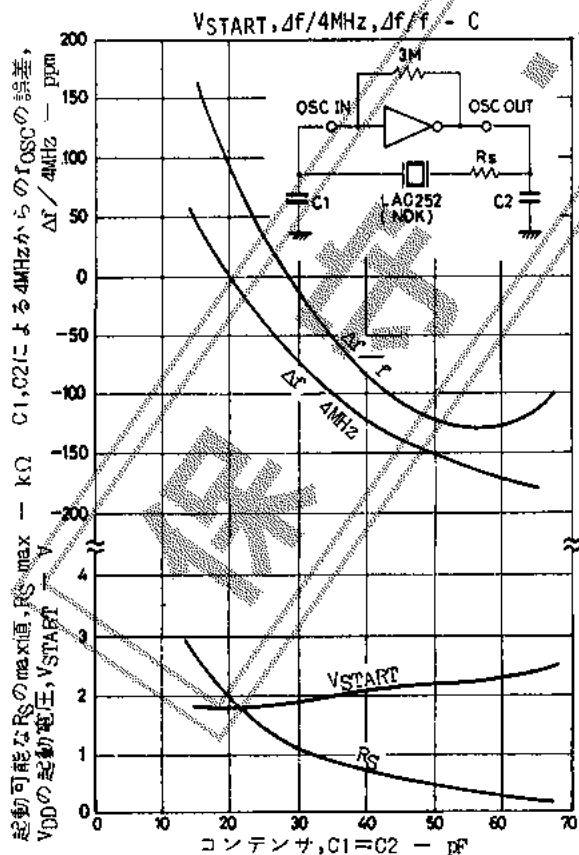
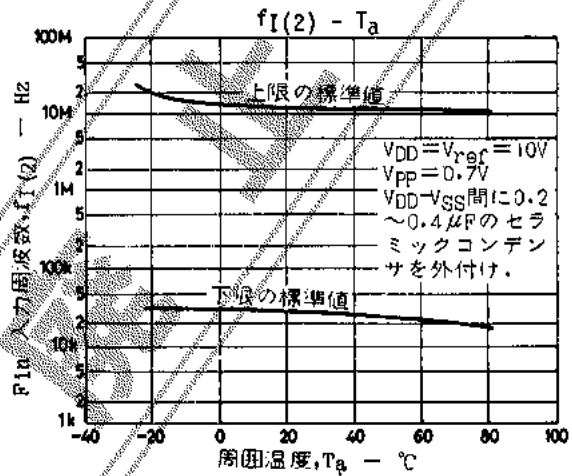
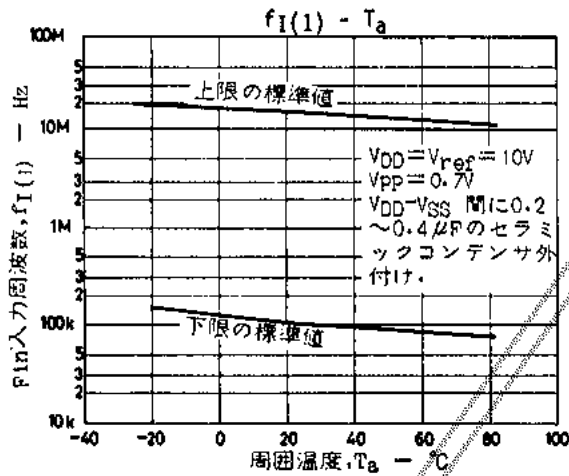
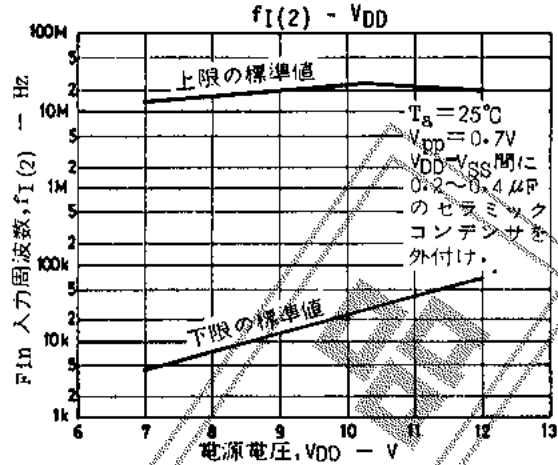
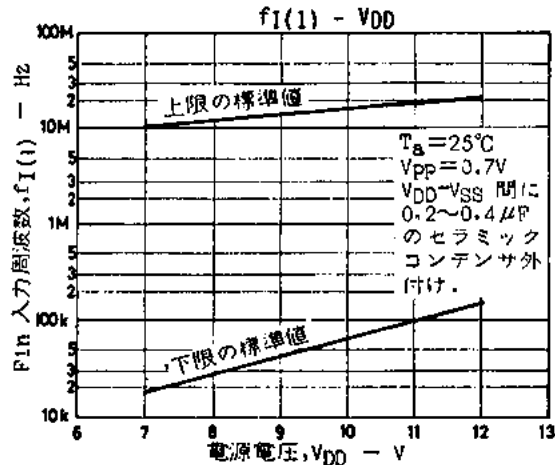
前ページから続く

		min	typ	max	unit
消費電流	$I_{DD}(1)$		8	17	mA
		$V_{DD}=10V, f_{I(1)}=2.5MHz(0.7Vp-p), f_{opg}=4MHz(クリスタル実装時)$			
	$I_{DD}(2)$		1	2.5	mA
		$V_{DD}=5.5V, f_{opg}=4MHz(クリスタル実装時), V_{ref}=0V$			
	I_{ref}		0.6	1.5	mA
		$V_{DD}=10V, V_{ref}=10V, AM-Pin=FM-Pin=V_{ref}$			

(注) 電流は LSI に流入する場合を正符号とし 流出する場合を負符号とする。

13. 主な特性





◆設計上の注意

- ・減電圧特性 ($\Delta f/f$) の点から $C_1 = C_2 = 43\text{pF}$ または 68pF が望ましい。
- ・発振の安定度の点から (V_{START}, R_g) C_1 と C_2 は小さい方が望ましい。
- ・上記 2 点のバランスを考慮すると $C_1 = C_2 = 27\text{pF}$ が適当である。なお C_1, C_2 は基板の浮遊容量も含む。実際には C_1 として 10pF のセラミックコンデンサと 30pF のトリマ、 C_2 として 27pF のセラミックコンデンサを使用するのが良い。セラミックコンデンサは温度特性 0ppm が良い。 1ppm で月差約 2.6 秒である。

(注) $\Delta f/f, V_{START}, \Delta f/4\text{MHz}$ では $R_s = 0\Omega$